
東大和どろんこ保育園

令和6（2024）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

株式会社 学研データサービス



1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動する思考”を育みます。 2)10よりも100の経験を与え、子どもが”したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。 3)”感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4)「0を1にかえる力」を日本中の子どもたちにつけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せてあげて背中であげて教える人 より良い保育を目指して創意工夫していける人 ・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔を心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中の言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	施設長は常により良い保育の実現に向かって創意工夫し、理念などに基づく活動を具現化するため率先して行動しています
	内容	どろんこ会グループは目指す運営理念や子育て目標を明確にし、「私たちが育てる6つの力」の具現化を園と本部が連携して園運営に取り組んでいます。施設長は率先して行動し、園内会議、委員会、朝礼などで考え方や意見を伝えています。スタッフ間のコミュニケーションが良く取れ、情報共有と感謝の気持ちを言葉で伝えるなど、人間関係が良好な状態です。スタッフ育成のために独自の研修を実施し、コンピテンシー研修や子育ての質を上げる会議、施設長会議、主任会議、社内限定講座などが実施され、より良い保育の実現に向かって創意工夫しています。
2	タイトル	大きな家のような環境でインクルーシブ保育を実践し、お互いを尊重しながら育ち合える本物の経験をしています
	内容	都で初となる子ども発達支援センターと一体の認可園として新設されました。両施設は同じ玄関から入り、同じ保育室で日課や園庭遊びをし、大きな家のような環境でインクルーシブ保育を実践しています。同年代や異年齢の子どもたちはお互いを尊重し育ち合い、発達段階と健康面に配慮された本物の経験をしています。音楽療法では専門のスタッフが指導し、子どもたちは手を合わせてコミュニケーションを取ったり、座っている子どもに歩ける子どもが視線を合わせて関わっていくなど、お互いの違いを認め合い自然にフォローし合う姿が見られています。
3	タイトル	食育活動によって実体験から得られる学びやひらめきなどを大切にし、感性を刺激できるようにしています
	内容	食育計画では年齢に合わせた内容を、栄養士とクラス担当者が話し合いながら、経験して欲しいことを取り入れています。クッキングなどの体験型の食育活動を毎月実施しており、梅干し、サンドイッチ、カレー、ポップコーン、たくあん、味噌作りなどの調理に取り組み、保護者にその様子を写真などで配信しています。園庭の畑で収穫した野菜で切り干し大根作り、田植えから収穫や脱穀などの一連の作業を子どもたちが行い、園庭にぬか釜を出して近隣の小学生と一緒にお米を炊く体験をするなど、実際に経験することで得られる学びを大切にしています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	苦情解決などへ適切な対応をするために組織体制を整えていますので、様々な機会に周知することを期待します
	内容	苦情や意見などについて、施設スタッフ以外にも相談できる苦情解決体制について「入園のしおり」や「本園における苦情解決につきまして」の資料に明記し、保護者に配付し説明しています。制度の目的は利用者の権利を擁護し、苦情への適切な対応をして解決を目指すものです。客観性を確保するため、第三者委員を設置し、助言や公正な対応をしていきます。しかし、第三者評価の利用者調査結果では、制度について認識度がもう少しという状態です。現状の資料ファイルや「ご意見ご提案BOX」の設置だけではなく、様々な機会での周知を期待します。
2	タイトル	スタッフの対応によって園の印象は変わりますので、来園者の接遇に対する意識を更に高めていくと良いでしょう
	内容	開園から3か月間、保育関係者、行政、他の自治体などの見学やマスコミの取材が毎日続き、多くの方々が来園する状況が日常化していました。スタッフの都合は相手には関係なく、忙しい状態の中で挨拶のていねいさや施設的美観に対する活動が不十分になることがあり、初めての対応で緊張感が生じ、適切に行動できないこともありました。園の印象はスタッフの対応によって変化するため、どのような状況で誰が対応しても、気持ちの良い接遇だと受け止められるように、施設長や主任の定期的な巡回指導などを通じて、意識を高めていくと良いでしょう。
3	タイトル	保護者参加率が高い行事が多くありますが、参加率に伸びしろがある「保育参加」への取り組みを期待します
	内容	どろんこ祭り、運動会、生活発表会、保護者懇談会など保護者が参加する行事がありますが、どの行事においても高い参加率となっています。しかし、「保育参加」については、行事などと日程が重ならない限りは年間を通して受け入れる体制を整え準備していますが、他の行事より参加者が振るわない状況にあります。保育に参加していくことで、保育者の視点から子ども同士の関わり方や活動の様子を知り、体験することができる貴重な行事になっています。多くの家庭が参加することで、さらに本園の保育についての理解が深まる機会になるよう期待します。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル①	自己実現を支援する人事制度と、充実した園内研修はスタッフの成長意欲を高めています	
内容①	どろんこ会グループの運営理念や子育て目標などに共感した人材を採用し、期待する人物像や行動指針をコンピテンシーブックなどで明示し、スタッフ一人ひとりの意向や経験、成長できる環境などに配慮し、適材適所の異動や配属を実施し自己実現を支援する人事制度を整備しています。スタッフ一人ひとりの目標設定と半期ごとの振り返りを行い、学びの場として多様な研修や勉強会への参加を推進し、子育ての質を上げる会議、外部研修、OJT研修など充実した研修制度は一貫性がある取り組みとなり、スタッフの意欲を高める育成制度となっています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	自然に触れ合う行事や活動は、多くの体験からの様々な学びを得る機会になっています	
内容②	子どもたちがたくさんの経験ができるよう行事や活動の内容は、策定会議においてスタッフ全員で「子どもがしたいと思う活動」を検討しています。散歩や遠足などの戸外活動では四季折々の自然の変化を感じたり、たき火体験などを通して、子どもの五感を使った体験や自然からの学び、健康な体作りになっています。感じたことや考えたことなどについて、色々な表現を楽しめるように取り組み、散歩中に集めた自然物を使って子ども発達支援センターの子どもたちと一緒に造形表現を行い、制作物を展示することで活動は繋がり、多くの体験になっています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル③	子どもの人権を尊重した、子ども主体の保育にスタッフ全員で日々取り組んでいます	
内容③	毎年2回「保育品質マニュアル」にある「人権チェックリスト」を活用して、スタッフが日ごろの保育について振り返りができる機会を設けています。定期的にマニュアルに沿った保育の提供ができているか確認をすることで、基本姿勢に沿って保育を提供する体制を整えて意識を高めています。日々の保育の中で名前を呼ぶときは必ず敬称を付ける、子どもが興味を示したことはできるだけ見守り、手を出し過ぎないことを基本姿勢としています。日課はやりたいことを選ぶ、無理に参加を促すことはしないなど、子どもの主体性を尊重した保育を行っています。	

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
1	カテゴリー1	
	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	あり	◆1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	あり	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
あり	◆1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	
あり	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
あり	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
あり	◆2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
あり	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
カテゴリー1の講評		
公表コメント	「運営理念」や「子育て目標」などの理解を深め、目指す姿の実現に向かっていきます どろんこ会グループの「運営理念」や「子育て目標」、「次年度のテーマ」などについて、11月の全体研修で理事長からスタッフに毎年説明しています。園では2月と3月の年間計画策定会議や3月のキックオフミーティングなどで理解を深め、園目標として「共に育ち合う笑顔あふれる家」を掲げています。保護者には「入園のしおり」や「重要事項説明書」を配付して個別面接などで丁寧に説明し、保護者懇談会や行事参加の際にも伝えています。園のホームページや玄関に資料ファイルを設置するなど周知に務め、目指す姿の実現に向かっていきます。	
	施設長はより良い保育実践のため、主体的な行動をする組織風土を目指しています 施設長は12月に運営本部が発表する「運営本部Mission」を基に、事業計画の策定を推進し、スタッフ個々の目標設定にも反映しています。本園は子ども発達支援センターと一体となった施設であり、子ども同士がお互いを受け入れ、思いやりや尊重する気持ちを育み、心身が成長することを目指しています。そのためには両施設のスタッフ間においても、聞く力やコミュニケーション力を大切にお互いの理解を図っています。保育活動を理解し主体的な行動によって、より良い保育を目指す組織風土となるようリーダーシップを発揮しています。	
	検討や決定の基本手順は園会議などで全員で話し合い、施設長が決定しています 検討すべき案件の話し合いや決定の手順は、施設長と主任で状況を把握し、リーダー会議で対応を検討した上で適切な会議で話し合っています。その内容は全員参加の園会議でも話し合い、意見をまとめ最終的に施設長が決定しています。欠席したスタッフはその内容や経緯について必ず会議議事録を確認し、伝達漏れ防止のために押印簿に押印しています。口頭伝達やシッターノートを用いる場合もあります。保護者へ決定事項などの伝達は、随時連絡用アプリでの配信や紙面のおたよりの配付、送迎時などに口頭で伝え、必要に応じ個別対応を行っています。	
	カテゴリー1の講評補足	
非公表コメント		

2		カテゴリー2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			
サブカテゴリー1(2-1)			
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6	
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)	
評価	標準項目		
あり	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している		
あり	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している		
あり	5. 事業所の経営状況を把握・検討している		
あり	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している		
サブカテゴリー2(2-2)			
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)	
評価	標準項目		
あり	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している		
あり	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している		
あり	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している		
あり	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		

	カテゴリー2の講評
公表コメント	利用者や地域からの情報などを把握し、ニーズや課題を捉え園の運営に生かしています 利用者の意見は、Webアンケートでどろんこ会グループ全園で毎年9月頃に実施し、園では3つの行事後に紙アンケートを行っています。保護者懇談会や希望者との個別面談、玄関に設置した意見箱、連絡帳や送迎時の会話から常に情報や意見を把握し、園の運営に生かしています。スタッフからの意見や提案は、年4回の個人面談時や、乳児会議や幼児会議、園会議における話し合いなどからも把握し、全体的な課題は園会議の議題としています。地域の情報については、行政が主催する私立園園長会議や保育関連会議に出席し、課題やニーズを捉えています。
	日本のインクルーシブ保育のモデル園を目指し、3か年計画などを策定しています どろんこ会グループの「中期計画」と「運営本部Mission」を基に、把握したニーズなどを踏まえ地域から選ばれる園になるために園会議で話し合っています。目標に向かって園の「3か年計画」を策定し、最重要項目として「日本のインクルーシブ保育のモデル園として確立する」を目指しています。単年度事業計画は基本方針として6項目を掲げ、丁寧な保育の実践を基盤に「3か年計画」と連動しています。計画推進は施設長会議などで状況を的確に認識し、園会議やリーダー会議でスタッフの個々の取り組みをサポートし、着実に進捗しています。
	経営状況は月次管理を行い、一年間の見通しを持って課題解決に取り組んでいます 福祉事業全体の動向については本部の勉強会や外部研修会などから得ており、行政情報などからも新たな展開を把握して、園運営に役立てています。経営状況は予算管理表で月次管理し、一年間の見通しを持って収支バランスの適正化など、事業計画達成を目指しています。今年度の課題の一つとして、新設園であるため園児定員に対しての入所者数を指標にして、運営本部と状況を共有して諸施策に取り組んでいます。対策として園イベントへの参加や子育て支援としての保育体験などを実施し、来園者を増やしどろんこ会グループの取り組みを周知しています。
	カテゴリー2の講評補足
非公表コメント	

3	カテゴリー3		
	経営における社会的責任		
	サブカテゴリー1(3-1)		
	社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
	評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	あり	◆1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	
	あり	◆2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している	
	サブカテゴリー2(3-2)		
	利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	あり	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	
あり	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
あり	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
サブカテゴリー3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		
あり	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		
あり	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		
あり	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		

	カテゴリー3の講評
公表コメント	守るべき法や倫理などは全体研修などで学び、遵守する姿勢は高いレベルになっています 全スタッフには保育品質マニュアル、就業規則、社内報によって守るべき法、規範、倫理を示しています。また、定期的開催する全体研修や毎月の園会議の中で、「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」や「情報セキュリティチェック」、「コンプライアンスチェック」を定期的実施し、子どもの尊厳を守る保育を実践しています。毎月の振り返りにおいて、専門職としてどのように業務にあたるべきかを確認することで理解が定着しています。これらの取り組みにより、スタッフの法、規範、倫理を遵守する姿勢は非常に高いレベルになっています。
	子ども発達支援センターと一体となり、地域の関心度は高く開かれた施設となっています 子ども発達支援センターと一体の都で初の施設であり、行政、他の自治体、保育関係者などの見学やマスコミの取材が開園から3か月間毎日続き、地域子育て支援としての園庭解放などに年度後半は毎月500名が利用し、ボランティアも受け入れ開かれた透明性ある施設となっています。また、利用者の苦情への対応は組織的な体制を整え、「入園のしおり」や、「本園における苦情解決につきまして」の資料によって周知しています。苦情や意見などは口頭や「ご意見ご提案BOX箱」などで受け付け、本部や第三者委員にも相談できる体制を取っています。
	子どもの人権を確認し、研修や虐待早期発見チェックリストなどで防止に努めています 新年度対策のキックオフミーティングで子どもの人権について確認し、「児童・保護者の人権に関するチェックシート」に基づき年2回振り返っています。同様に「虐待早期発見チェックリスト」を使用し防止研修も実施しています。マニュアルで定義を明確にしており、少しでも疑わしいような事象があった際は施設長や本部担当部課長に速やかに報告をするよう定めており、コンプライアンス全般の対応についても考慮し、連絡用アプリによる内部通報システムも導入しています。虐待を疑われる情報を得た時には関係機関と連携し迅速に対応していきます。
非公表コメント	カテゴリー3の講評補足

4	カテゴリー4		
	リスクマネジメント		
	サブカテゴリー1(4-1)		
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
	評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	
	あり	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	
	あり	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	
	あり	◆4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	
あり	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
サブカテゴリー2(4-2)			
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている		
あり	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している		
あり	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている		
あり	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している		
カテゴリー4の講評			
公表コメント	訓練やリスクマネジメント研修などでリスクを学び、安全な環境づくりを徹底しています 事故や災害時には子どもの命に関わることを最優先に捉え、避難訓練、不審者侵入対応訓練、水の事故に対する訓練などを毎月実施しています。見失いや置き去り事故の防止に関しては人数確認リーダーを定め、戸外活動時の人数確認のダブルチェックを複数スタッフで徹底しています。園内のヒヤリハット箇所や園外ハザードマップを作成し、掲示などで注意喚起し日々の怪我などに留意しながら保育にあたり、リスクマネジメント研修で様々な危険について学習し安全な環境づくりを徹底しています。事故防止委員会は情報を共有し再発防止に努めています。		
	事業継続計画はクライシスマニュアルにおいて、対応方針と活動を明記しています 事業継続計画はどろんこ会グループの「クライシスマニュアル」に示しています。大災害発生時には対策本部を設置し、「大規模災害発生時対応フローチャート」などに基づき行動していきます。通信インフラが機能していれば、社用スマートフォンで対策本部と園の情報共有を図りながら活動していきます。早期復旧のための初期活動時には通信インフラなどが機能しない場合も考えられますので、安全を確保した上で参集する候補者や活動内容をより明確にしておくとう良いでしょう。保護者には災害時の対応について重要事項説明書や安全計画で周知しています。		
	情報管理については各種情報のセキュリティー対策を講じ、機密保持に努めています 情報管理についてデジタル情報は使用するパソコンを限定し、個人別のパスワードの設定によりアクセス制限を行い、外部記憶媒体の使用を禁止し、セキュリティー対策をした園内サーバーや本部サーバーで集中し管理しています。紙資料での個人情報やパソコンの保管については、職員室の施錠できる書庫で保管し、鍵は施設長が管理しています。スタッフには特定個人情報取扱い規定などの遵守のために年に2回「情報セキュリティーチェック」を実施し、機密保持に努めています。保護者にはどろんこ会グループの個人情報の取り扱いの同意を得ています。		
	カテゴリー4の講評補足		
非公表コメント			

5	カテゴリー5		
	職員と組織の能力向上		
	サブカテゴリー1(5-1)		
	事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
	評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	
	あり	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	
	評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	◆1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	
	あり	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	
	評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	◆1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	
あり	◆2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		
あり	◆3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		
あり	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		
あり	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		
あり	◆3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		
あり	◆4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		
サブカテゴリー2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3	
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		
あり	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		

	カテゴリー5の講評
公表コメント	理念に共感した人材を採用し、成長できる環境に配慮し異動や配属も実施しています 人材の採用活動については本部人事採用部が様々な方法に取り組み、園のホームページにはどろんこ会の採用サイトとリンクし、園の様子や特色が伝わりやすいように写真などを使用して発信しています。新卒者には入社説明会を開催し、どろんこ会グループの理念などの説明を行い、希望者には園の見学と面接を実施した上で、理念に共感した人材を採用しています。スタッフの定着には一人ひとりの状況を施設長と本部担当課長が適宜個人面談などから把握し、スタッフの意向や経験、成長できる環境などに配慮し、適材適所の異動や配属も実施しています。
	人事制度と研修制度はキャリアパスを支え、スタッフの意欲を高め成長に繋がっています どろんこ会グループの人事制度は、等級ごとに求められている職務や職責、昇級や昇格の基準を示しています。事業計画と連動した目標管理制度を導入し、部門と個人の取り組み目標を設定し、その達成状況などは評価の基準となり昇級や報酬と連動しています。スタッフは目標に対しての進捗状況を年間4回の施設長面談や園会議で確認し、的確なアドバイスを受けています。子育ての質を上げる会議、外部研修、OJT研修など充実した研修制度はキャリアパスを支え、これらの一貫性ある人事制度と取り組みはスタッフの意欲を高め、成長に繋がっています。
	感謝の気持ちを言葉で伝えるなど、安心して働きやすい気持ちの良い職場となっています スタッフが安心して働きやすい環境にするため、休暇取得などの希望はシフト作成前に事前申請し可能な限り反映しています。勤務時間は時間内終了を目指し、計画的な有給休暇取得を推進しています。休憩は1時間確保できるようにローテーションを組んでいます。本部研修や外部研修など研修の機会が多く、得た知識は全員で共有し、全体の意識を高め合っています。職場の雰囲気は感謝の気持ちを言葉で伝えることや多くの会話をするを励行し、一人ひとりが役割を果たし、子ども発達支援センタースタッフとも協力し、気持ちの良い職場となっています。
非公表コメント	カテゴリー5の講評補足

7	カテゴリー7	
	事業所の重要課題に対する組織的な活動	
	サブカテゴリー1(7-1)	
	事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
	評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
	前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
	令和6年4月、都で初となる子ども発達支援センターと保育園の一つの園舎の中に新設し、目標を「インクルーシブ保育の実践と地域への発信」としました。その理由は、2つの施設のスタッフが相互支援をし、それぞれの専門性や強みを生かした新しいインクルーシブ保育を確立し、その取り組みについて保護者や地域などに認識を広めていく必要があると考えたためです。取り組みは、園会議、業務改善研修(質を上げる会議)、業務改善研修(施設長会議)などで研修を繰り返し実施していきましました。また、スタッフの連携と協力が鍵になると考え、職員室の座席をフリーアドレスにし、組織的活動がしやすくなるよう施設長、主任、児童発達支援管理責任者の座席の位置は設定していきましました。施設情報は見学者に伝え、新聞社やテレビ局などへプレスリリースを行い、地域や自治体などへ発信していきましました。取り組みの結果、柔軟に思考することや、人権を強く意識した活動となりました。インクルーシブ保育への取り組みの課題はまだ多くあると感じていますが、独自の運営スタイルは出来つつあります。今後も継続して取り組み、両施設のスタッフの話し合いを重ね、仕組みを整え目標の実現を目指していきまします。	
	目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
	取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
	検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
	評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評	
	開園当初はどろんこ会グループの理念が深く理解されていないことや、従来からの経験則によった保育や支援をしていることがありましました。また、両施設のスタッフの一体感も懸念されましましたが、インクルーシブ保育について、スタッフ同士の意見を密に交換できるように配慮し、園会議や少人数でのクラス会議などでの話し合いを重ね、スタッフ間の連携や言動がスムーズになってきましました。その変化は、両施設の子どもたちの行動に反映し、ありのままを受け入れ、一人ひとりへの思いやりや、支援する姿などが見られ、表情や言葉が豊かになってきており、インクルーシブ保育の取り組みの方向性や自分たちのスタイルの可能性を感じていきまします。さらに一体感あるスタッフ体制や仕組みを模索すること続け、座席を随時変えることなども行ていきまします。見学者やメディアに対しては運営理念や、自分たちが大切にしていまインクルーシブ保育などを発信できたことで、地域の方をはじめ多くの方に共感が得られたと考えていきまします。今後も継続して学び続け、意見を交わし続け、走りながら考えることが必要であると感じていきまします。今年度後半からは散歩に一緒に行く取り組みを始め、成長する機会となていきまします。	
非公表コメント	カテゴリー7評価項目1の講評補足	

非 公 表 コ メ ン ト	評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)	
	前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
	今年度二つ目の目標は、人権について学びを深め「丁寧な保育の実践」としました。課題とした背景には、子ども扱いするような保育ではなく、一人ひとりの特性を見極め、決めつけず、障がいの有無にかかわらず、子どもの最善の利益を追求することを目指そうと考えたためです。取り組みは、子どもの人権について施設長の講義や園会議などから学び、ディスカッションをする機会には積極的に発言していきまし。講義やマニュアルで示されている不適切な言動や虐待について、正しく理解し、人権チェックリストにより定期的にセルフチェックを実施しています。取り組みの結果、子どもの人権について多くの機会にスタッフは話し合い、常に意識するようになっており、虐待が疑われるような言葉がけや態度で子どもと接することがなくなってきています。その結果、全体の保育の質は向上し、丁寧な対応をしたことで、子どもは安心し穏やかになるなどの成果が出ています。今後においては、強みである保育の専門性を活かすために両施設のスタッフ同士がさらに連携のとれた体制を創造し、次年度に向けて、引き続き研修に力を入れると共に、子どもの最善の利益となる質の高い丁寧な保育実践を目指しています。	
	目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
	取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
	検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
	評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評	
非 公 表 コ メ ン ト	障がいの有無にかかわらず、「丁寧な保育の実践」をする上で大変だったことは、子どもは一人ひとりの感覚が違い、行動や言葉づかいを修正するための時間に差異が生ずることがありました。スタッフは基本として、子どもの気持ちを理解しようと寄り添い、丁寧な所作に気を配り、子どもに対してきちんとした日本語となるように、きれいな言葉づかいで話すことを心がけ励行していきました。その結果として言葉かけが丁寧になり、子どものやりたい気持ちを待つようになり、特性のある子への自然な対応となっていきました。しかし、当初は子どもにきちんと行動してもらいたいという気持ちから、子どもと接する時に声が大きかったり、時間の配分が上手くいかず遊び込みが少なくなってしまうスタッフが見られました。今後においても人権に関する理解をさらに高め、子ども発達支援センターに在籍する子どもの特性と支援計画の共有を図り、子どもを尊重した保育活動にしていきたいと考えています。今年度後半の具体的な取り組みとして、研修面では若手スタッフを中心に10月、11月、12月に自主勉強会を開催し、人権を基盤に置いた丁寧な保育について振り返り、日々の保育活動で実践しています。	
	カテゴリー7評価項目2の講評補足	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4 / 4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
あり	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		
あり	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		
あり	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		
あり	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		
サブカテゴリー1の講評			
公表コメント	ホームページやパンフレットなどを活用して園の基本姿勢について情報を提供しています		
	ホームページには住所、定員、利用料金などの基本情報や、子ども発達支援センターと併設している環境であることが伝わるように、施設の特長について分かりやすく掲載して概要を伝えています。ホームページには園だよりなどのおたよりも掲載して、園の日々の保育活動について、具体的に理解できるようにしています。入園のしおりは主に園見学者に配布をしており、運営理念、子育て目標などの基本姿勢に加えて、裸足保育、雑巾がけ、畑仕事、異年齢保育、銭湯でのおふろの日など、どろんこ会グループの特徴的な保育を紹介して理解を深めています。		
	市のホームページに園の基本情報を掲載して、必要な情報を入手しやすくしています		
	市のホームページ「市内保育所施設一覧」に、園の所在地、開園時間、受け入れ年齢、定員、アクセスマップなどの基本情報を載せて、地域の人たちが必要な情報を、入手しやすい体制を整えています。また、本園のホームページへのリンクがされており、さらに詳細な情報を知りたい方のニーズにも対応しています。園開放、子育て相談、自然食堂(親子ランチ交流)などの子育て支援事業の情報は、園の周囲の柵に掲示をしたり、市役所や児童館といった市の施設にもチラシを設置して周知し、近隣地域の人たちが気軽に来園できるよう働きかけています。		
非公表コメント	園見学は希望する日程に合わせ実施し、施設を見ながら保育活動を理解しています		
	本年度は多くの園見学希望があり、その受け入れのために複数の見学会日程を設けるなどの工夫をして、より多くの人を案内できるようにしています。見学者には園のしおりに沿って日課、特長的な保育内容についての説明を行い、どろんこ会グループが目指している保育の説明をしています。「足指で地面をとらえる力を育てる」ことを目的にした裸足保育の導入、3歳児以上のクラスは毎月1回銭湯の日があること、命の教育に取り組んでいることなどの特長を伝えて、園の保育活動について理解できるよう努め、入園後に認識の違いがないようにしています。		
	サブカテゴリー1の講評補足		

サブカテゴリ-2	
2	サービスの開始・終了時の対応 サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6 評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評価 標準項目 あり 1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している あり 2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている あり 3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している 評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評価 標準項目 あり 1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している あり 2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している あり 3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている
サブカテゴリ-2の講評	
公表コメント	入園のしおりや重要事項説明書にて入園にあたっての基本的なルールを説明しています 入園前面談では入園のしおりに沿って、保育方針、目標、保育内容など園の目指す保育の取り組みや、利用料金、延長保育、登園の際に医師の診断書が必要な疾病の説明を実施して、集団生活における基本的なルールを確認しています。面談の最後には重要事項説明書において、説明漏れがないか保護者とチェックをして再度確認する体制を取っています。面談の内容は「入園前面談票」に既往歴、発育について、食事、アレルギーの有無、発達全般について、入園までの家庭状況などを記録して、会議にて新入園児の情報をスタッフ間で共有しています。 慣れ保育については保護者の希望や就労状況に合わせて個々に期間を設定しています 慣れ保育については保護者の就労開始時期や子どもの集団生活経験の有無などを考慮し、入園前面談で保護者からの意向や要望、配慮してほしい点を聞き取りをした上で、要望に沿って滞在時間や期間を決めていき、子どもの様子を見ながら次の日の保育時間を相談するなど、子どもを第一に考え臨機応変に対応しています。子どもの情報をクラス担当者間でしっかりと把握をした上で新生活に馴染めるよう環境設定や関わりを配慮し対応しています。連絡帳や口頭で、保育中の様子を丁寧に説明することで、保護者との共通理解が図れるようにしています。 小学校へスムーズに移行できるよう、隣接する小学校を中心に連携を進めています 開設1年目の園ですが、隣接する小学校とは子ども同士はもちろんのことスタッフと小学校の先生との交流も進んでおり、情報共有がしやすい環境となっています。本年度は5歳児クラスの園児が少ない状況でしたが、次年度以降は園児が増加する見込みとなっており、「小学校接続連携計画」に沿って、情報収集や入学に向けて必要な支援を把握し、保護者に早めに説明をして共有しています。また、卒園後も園に来る機会をつくりたいと考え、行事や夏休みのボランティア活動を受け入れるなど、関係性が継続していけるように取り組んでいます。
	サブカテゴリ-2の講評補足
	非公表コメント

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
あり	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	
あり	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	
あり	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
あり	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	
あり	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	
あり	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	
あり	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	
あり	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
あり	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	
あり	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
あり	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	
あり	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	
あり	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	

	サブカテゴリー3の講評
公表コメント	入園後の子どもの成長は所定の様式に記録して、発達に合わせた保育を提供しています 1歳児、2歳児クラスまでは毎日の個別記録、個別月案を立案して、成長に合わせた支援方法についてスタッフ間で統一して、個々に合わせた関わりを実施しています。個別記録の作成の際にはエピソード記録を載せることで、子ども一人ひとりの個性、興味、関心に注視をして、子どもの姿の変化をしっかりと把握をして、一人ひとりに合わせた保育支援に繋げています。3歳児以上のクラスは3カ月に一度子どもの様子についての振り返りを実施して、子どもの成長過程をクラス担当者間で共有をして、発達に合わせた遊びや活動を行って成長を支援しています。
	全体的な計画を基にした年間指導計画などに沿って、子どもの育ちを着実にしています 全体的な計画にはスタッフの話し合いや意見を集約し、今年度の園目標として「共に育ち合う笑顔あふれる家」を掲げています。新規園として園に関わる全ての人々が、共に成長し合える場所になれるようにという願いを込めています。全体的な計画には、子どもが成長する様子を踏まえて、卒園までに目指す10の姿を計画の中に明示しています。年間指導計画や月案、週案なども全体的な計画と連動しており、年度末に向けて年齢や発達に合わせた学びや体験を積み重ねていくことで、子育て目標に沿って子どもの育ちが着実に進んでいくよう立案しています。
	園会議などの会議では事例検討にて、子どもの様子を共有して支援方法を検討しています 園会議、乳児・幼児会議では、各クラスの様子についての報告や配慮が必要な子どもについて情報共有を行い、子どもに関する情報を園全体で共有しています。本園は子ども発達支援センターとの一体となった施設であり、日々の保育にも両施設のスタッフが関わっていることから、各会議には必ず同席をして情報共有、支援方法の擦り合わせをしています。配慮が必要な子どもについてはケース会議を実施して、支援方法の統一化、個々の特性に合わせた環境設定などについて共有をして、事例を基に検証をするなど子どもへの理解を深める機会にしています。
	サブカテゴリー3の講評補足
非公表コメント	

サブカテゴリー5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている
あり	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
あり	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている
あり	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
サブカテゴリー5の講評	
公表コメント	入園時にはどろんこ会グループにおける、個人情報保護の基本姿勢を説明しています 個人情報保護について、どろんこ会グループの基本姿勢は入園時に使用目的、情報の種類、情報管理および第三者への情報提供などを明確にし、厳重な管理下で限定的に使用することを説明しています。緊急時に警察署や児童相談所などの行政各所、医療機関などへ情報を提供をする際には必要最低限の使用とすること、保護者の同意を得て行うこととしています。写真、動画の園内における掲示、ホームページや外部媒体などでの使用については、保護者に同意を得た範囲で使用に限定し、映像を使用するメディアなどの場合はその都度確認をしています。
	子どもの人権、羞恥心などに配慮して、子ども一人ひとりを尊重した保育を行っています 子どもの羞恥心への配慮としては、オムツ交換などは他児や外から見えない場所で行い、トイレなどの失敗においても周りに気づかれないようにしています。5歳児クラスには性教育を実施してプライベートゾーンの大切さ、命の大切さを伝える時間を設けています。子ども主体の保育について園全体で意識を高められるよう取り組んでおり、保育の中で子どもがやりたいことを選び、興味を示したり集中している時は、安全に留意して見守ることで、子どもの成長をスタッフが主導するのではなく、子ども自身の力で進めていける環境を大切にしています。
	人権チェックリストを活用した保育の振り返りを年2回実施して、理解を深めています 毎年2回「保育品質マニュアル」にある人権チェックリストにて、日々の保育について振り返りを行い、子ども主体の保育の視点について再確認をして保育に関われる体制を整えています。どのような行為が虐待に繋がるのか虐待の定義について学ぶことで、不適切な保育に繋がらないよう園全体で取り組んでいます。本園は商店街ツアー、遠足や銭湯などの戸外活動も多いことから、危険な場合などにおける注意の仕方についても細心の注意を払えるように、日ごろから意識付けを行い、周囲からどう見られるのかという視点も踏まえていけるようにしています。
	サブカテゴリー5の講評補足
	非公表コメント

サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標準化
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
あり	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている
あり	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
あり	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている
サブカテゴリー6の講評	
公表コメント	スタッフは日々保育品質マニュアルを確認しながら保育を実践する体制を整えています どんご会グループ共通の「保育運営マニュアル」は職員室に保管し常時確認することができ、全スタッフには「保育品質マニュアル」を入職時に配付しています。園運営に関することや保育全般については、関連するマニュアル沿ったで対応をすることを基本姿勢としており、共通の対応を実施する体制を整えています。「保育品質マニュアル」は職員会議などで読み合わせを行い、マニュアルを遵守することで安全で質の高い保育を提供しています。夏のプールや避難訓練前などには、必要な箇所は事前に読み合わせをして、手順や役割分担を確認しています。
	どんご会グループによる年2回の内部監査などで、定期的に業務の見直しをしています どんご会グループによる法人監査は年2回、命や安全に関わること、保育内容、環境、経営に関することなどの全般において、マニュアルに沿った適切な運営がなされているか第三者的な視点から実施されています。監査で指摘を受けた内容はすぐに対応するために、なぜ指摘を受けたのか原因を確認して、手順を見直すなどの必要な対策を講じて改善に努めています。マニュアルの中でも重要な箇所である、怪我、病気、衛生管理などのフローチャートは、ラミネート加工をして保育室の所定の場所に設置をし、すぐに確認できるようにしています。
	保護者やスタッフの意見を聴き、より良い園運営に繋がっていけるよう取り組んでいます 毎年利用者アンケートを実施して、園運営への意見や感想を聴き取る機会を設けています。本年度のアンケートでは保護者から改善を求めるような意見は挙がらず、園の保育への理解や感謝の声が聞かれました。今後も保護者への丁寧な説明や、日々のコミュニケーションを積み重ねて信頼関係を築いていけるよう目指しています。スタッフは年度末にプロポーザルを実施して、成長や発達に合わせて提供したい保育活動を話し合っており、次年度に向けて子ども主体の保育や、園に関わる人たちの輪が広がるような取り組みを着実に進めています。
	サブカテゴリー6の講評補足
非公表コメント	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サブカテゴリ4															
サービスの実施項目															
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 36/36															
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇) <table> <tr> <th>評価</th><th>標準項目</th></tr> <tr> <td>あり</td><td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている</td></tr> <tr> <td>あり</td><td>2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している</td></tr> <tr> <td>あり</td><td>3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している</td></tr> <tr> <td>あり</td><td>4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td></tr> <tr> <td>あり</td><td>5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつキ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている</td></tr> <tr> <td>あり</td><td>6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している</td></tr> </table>	評価	標準項目	あり	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	あり	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	あり	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	あり	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	あり	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつキ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	あり	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している
評価	標準項目														
あり	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている														
あり	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している														
あり	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している														
あり	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している														
あり	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつキ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている														
あり	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している														
評価項目1の講評															
公表コメント	子どもの成長をスタッフ間で共有して、各クラスのねらいに沿った保育を行っています 子どもの成長過程については所定の記録物に記入しており、次案を立案する際には一人ひとりにおいての省察を行うことで、クラス担当者のみではなく全スタッフで子どもの育ちを把握しています。毎朝の朝礼では月案や週案のねらいを、今日のどの活動の中に取り入れているのかスタッフ間で確認して保育に入ることで、統一の目的を持って支援に関われる体制を整えています。月案、週案を立案していく際にも、子ども一人ひとりの成長についての省察を実施して、成長に合わせた支援に繋げていくことで個々の特性を生かした保育を提供しています。														
	インクルーシブ保育を実施して、子ども同士が育ち合える環境を大切にしています 1歳児クラスは年齢別クラスで過ごすことで、保育者との少人数でのかかわりの中でゆったりと安心して過ごせる環境設定にしています。2歳児から5歳児クラスは異年齢保育を取り入れており、年齢差やお互いの違いを認め合いながら一緒に過ごす中で共に成長し合える環境設定にしています。本園では子ども発達支援センターに通所している子どもも、保育園に通所している子どもと一緒に過ごす「インクルーシブ保育」を実施しています。スタッフの基本姿勢として、関わり過ぎるのではなく子ども同士の関係性からの育ち合いを見守れるようにしています。														
	隣接している小学校を主に、連携を取りながら入学を楽しみにできるよう支援しています 小学校入学へは「小学校接続連携計画」に沿って、情報収集や入学に向けて必要な支援を把握して、保育に生かすと共に保護者にも共有しています。隣接する小学校の5年生の2クラスとは、環境にやさしい素材を土に還す活動を一緒に行ったり、小学生が手作りした玩具でルールのある遊びを楽しむなど、定期的に交流をすることで入学が楽しくなるように働きかけています。園内活動ではヤギ、ニワトリの世話や雑巾がけに毎日取り組んで、自分達の「仕事」として責任を持つことや、友だちと協力すること、自分の役割を果たすことを経験しています。														
非公表コメント	評価項目1の講評補足														

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	
	あり	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	
	あり	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	
	あり	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	
評価項目2の講評			
公表コメント	登園時は子どもの様子を注意深く観察して、体調の変化を見逃さないようにしています 登園した際は顔色や覇気があるか、あざやけがなどがないか様子観察と、検温を実施すると共に保護者に口頭でも体調を確認しています。保護者からの伝達事項は「シッターノート兼お迎え伝達ノート」に記入してクラス担当のスタッフに申し送り、朝礼でも全体で共有をしています。体調が優れない様子の子どものについては、いつもより検温や体調確認を増やして体調悪化の兆しを見逃さないようにしています。また保護者の承諾を得て室内活動に変更をしたり、体調が悪化した際には連絡を入れることを伝えて、連携を図って対応しています。		
	個々の子どもの発達に応じて、生活習慣の習得ができるような支援を行っています トイレトレーニングを始めるにあたっては、家庭の様子と保護者の意向を把握して、園と足並みを揃えていけるようにしています。子どもが新しいことに興味があるかどうか確認をしながら、少しずつトイレに座る時間を確保して、一人ひとりのペースに合わせて対応しています。衣服の着脱ではできるところを認めながら、保育者の都合で着脱を進めるのではなく、やりたいという気持ちを尊重して見守ることも大切にしています。食具の使い方では一人ひとりの食事の様子を観察して、持ち方や手首の使い方などを見ながら箸の導入を進めています。		
	お迎え時に保護者に子どもの様子を丁寧に伝えて、信頼関係の構築を図っています 降園時には3分を目安に子どものその日の様子を伝える「3分間お迎え対応」を取り入れ、保護者一人ひとりのコミュニケーションを大切にしています。お迎えが重なる時間には、保護者を待たせてしまうことや十分な時間が取れないこともありますが、遅番スタッフへの申し送りや「シッターノート兼伝達ノート」を活用し、必要事項を確実に保護者に伝えていける体制を取っています。連絡帳やアプリにて日中の活動の様子を写真などで配信する「タイムライン」を活用し、園の様子を分かりやすく伝えていくことで、保護者の信頼に繋がるようにしています。		
非公表コメント	評価項目2の講評補足		

3

評価項目3
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている
あり	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している
あり	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している
あり	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている
あり	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている
あり	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している

評価項目3の講評

公表コメント

どろんこ会グループの特徴的な保育を通して、子どもの健やかな成長を支援しています

座禅、雑巾がけ、リズム体操、生き物の世話、畑仕事、銭湯でのおふろの日、商店街ツアー、裸足保育などのどろんこ会グループの特長的な保育を提供して、怪我をしない強い体を育てる、自分で出来ることは自分でする、生死や食の循環を知るなど「私たちが育てる6つの力」が育つよう支援しています。自ら考えて自分で出来ることは自分でやろうとする力を伸ばし、子どもの主体性、自主性を尊重した保育を提供しています。日課でも活動を自分で選べるようにする、決めたことを最後までやろうとするなどの経験を通して、成長していく姿が見られています。

各保育室にゾーンを設けて、子どもが集中して遊び込める環境設定にしています

各保育室にゾーンを設けて子どもが好きな場所で、好きなおもちゃを選んで遊べる環境を整えています。2歳児以上のクラスは異年齢クラスであることから、広い保育室の中での安全にも配慮できるよう、マットなどの敷物の上でブロックを広げる、新聞紙、布など廃材を活用した製作ができる場所、パズルは机上で行うなど、ゾーンを設定することでお互いの遊びが交わらないようにしています。固定の遊具やおもちゃのみではなく、見ただけで遊びができるような素材や教材を揃えて、子どもたちの自由な発想で遊びが展開できる環境にしています。

戸外活動では五感を使うなど子どもたちが自然からの学びを体験できる機会にしています

園庭には築山や畑、田んぼ、ヤギやニワトリ小屋があり、安全な環境の中で伸び伸びと体を動かせる時間を確保しています。生き物の世話では命の大切さを知る、野菜や稲の栽培を通して食物を育てることの大変さを学んでいます。戸外活動では子どもに体験して欲しい内容をスタッフ間で話し合い、成長や目的に沿って活動を組み込み、健康な体作りを支援しています。散歩、遠足などの戸外活動では四季折々の自然の変化を感じたり、たき火体験などを通して、子どもの五感を使った体験や自然からの学びができる機会にしています。

非公表コメント

評価項目3の講評補足

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
	あり	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
	あり	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評			
公表 コメント	行事の内容は毎年の子どもの姿を踏まえて立案をして、子どもの主体性を尊重しています 行事の開催にあたってはどのような内容にするのか、スタッフ間で話し合いながら子どもの成長した姿や、日ごろの保育の中で興味のあることを盛り込んでいます。各クラスの担当者が「子どもたちにとって何が必要か」を考えて立案をして、行事を体験することで自信に繋がったり、友だちのとかかわりが深まるよう配慮しています。日ごろの保育についての理解が得られるように、1歳児クラスは朝の会で名前を呼んで返事をする、リズム遊びをするなど日常の様子を行事に盛り込むことで、集団活動への関わり方や成長した姿を披露しています。		
	友だちとのやり取りなどを経験して、他者を尊重して行事に参加する環境を整えています 行事には子ども発達支援センターの子どもたちも一緒に参加をしており、お互いの違いを認め合いながら一つの事に取り組める機会にしています。運動会のサーキット競技では、ルートを2つ設定して選べるようにするなどして、体を動かすことが苦手な子どもも参加しやすいように配慮しています。子ども同士で譲り合いや、支え合い、頑張っている友だちを応援する姿が自然とみられており、本園が行っているインクルーシブ保育を通して、子ども同士がお互いを尊重し合える関係性が築かれていることが、行事からも垣間見ることができました。		
	保護者も参加しやすいようにして、行事を盛り上げてもらえるように働きかけています 保護者には子どもたちの行事の取り組みの姿勢や、日々の保育の内容を生かしていることについて丁寧に説明をしています。開園初年度で初めてだらけの行事でしたが、どんぐり祭り(夏祭り)では地域の方、保護者を含めて400人近い参加者があり、保護者にも手伝ってもらい行事を盛り上げることができました。次年度以降の開催についても子どもの成長と一緒に共有していけるような内容にすることで、何かあったときや不安についても寄り添える関係性を構築して、保育園が子どもに関わる大人も一緒に成長できる場所となれるよう目指しています。		
非公表 コメント	評価項目4の講評補足		

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
	あり	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	
評価項目5の講評			
公表 コメント	子どもが好きなことをできる時間にして、無理なく過ごせるよう支援しています 夕方の時間は午睡後も園庭や2階のテラスで遊べる時間を確保して、たくさん体を動かすことができる環境を整えています。室内遊びでも好きな場所を選んで、好きなように過ごしてよい環境設定にしており、静かに遊べる空間と、活発に遊べる空間を分けて、自分が好きな場所を選んで集中して遊び込める時間になっています。疲れた様子が見られる子どもには少し落ち着ける場所や、横になって過ごすこともできるようにしています。2階の個室も随時活用して、周囲の音に疲れてしまうなど配慮が必要な際に利用して、無理なく過ごせるよう支援しています。		
	子どもの人数に応じて合同保育にする時間を変更して、安全な環境を確保しています 朝と夕の時間は全クラスと一緒に過ごす合同保育の為、年齢が小さい子どもも安全に過ごせる環境を整えています。17時過ぎからは全園児での合同保育を取り入れて、園全体が一つの家として異年齢同士で自由に遊べる環境を整えています。少しずつ人数が少なくなっていく中でも、不安やさみしさを感じることがないよう、保育者が得意な遊びを子どもと一緒に楽しんで過ごすなど、家庭的な雰囲気作りを大切にしています。19時過ぎには夕食を提供して、保育者も一緒にテーブルに座りながら見守ることで、くつろぎながら過ごせる時間になっています。		
非公表 コメント	評価項目5の講評補足		

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
	あり	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
	あり	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
	あり	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
	あり	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	
評価項目6の講評			
公表コメント	バイキング形式の昼食では、自分で適量を盛り付けて好きな場所で食事を楽しんでいます 2歳児クラスからバイキング形式の給食を提供しており、自身が食べられる量を自分で盛り付けをして、好きな場所を選んで食べる環境を整えています。日課では9時には散歩や園庭遊びなどの戸外活動を始めて、しっかりと体を動かすことでお腹が空き、ご飯を食べたくなるような生活リズムを大切にしています。お腹が空くから食事が美味しく感じられる、食べようとする意欲も沸き健康な体作りに繋がるというサイクルを尊重して保育を組み立てています。1歳児クラスは保育者と一緒にテーブルに座り、落ち着いて食事に集中できる環境にしています。		
	子どもが給食を楽しみにできるような取り組みを実施して、食への興味を広げています 毎月の給食会議では各クラスからの喫食状況を報告して、クラス担当者と給食担当で情報を共有しています。給食は素材の味を生かせるよう出汁を効かせる、旬の食材を取り入れる、お米はグループ企業が新潟で生産している安心、安全なものを提供するなど食の安全性にも配慮しています。子どもたちが野菜洗い、米とぎを日課に取り入れることで、自分が手伝った事で食べようという意欲が沸くように工夫しています。誕生日には特別プレートに乗った給食を提供したり、行事に合わせた献立を提供して食事が食べなくなるように働きかけています。		
	年齢に合わせた食育を立案して子どもたちが体験を通して食を学ぶ機会を確保しています 食育計画は年齢に合わせて身に付けたい食習慣、体験などを盛り込んでおり、園庭の畑では年間を通して野菜や花を植えて、子どもたちもスタッフと一緒に畑仕事に関わっています。収穫した野菜でカレーやお好み焼き作ったり、味噌作りで作った味噌を使ってすいとんを作るなど、調理をする楽しさも経験しています。園庭で稲を植える、刈る、脱穀するなど一連の流れを経験して、園庭でぬか釜や薪でお米を炊いて近隣の小学生や近隣園と一緒に食べる機会を設けたり、発表会では味噌汁を振舞うなど、園の活動を保護者や地域の人にも共有しています。		
	評価項目6の講評補足		
非公表コメント			
7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
	あり	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
	あり	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	
	評価項目7の講評		
	公表コメント	保健指導を年間行事に組み込むことで、季節や年齢に合わせた学びを提供しています 保健指導を行事の中に組み込んで、年齢や季節に合わせた学びを適切な時期に子どもに伝える体制を整えています。保健指導は手洗い、うがい、トイレの使い方、歯みがき指導、5歳児クラスには性教育を行って、体調管理や自分の体の仕組みについて知ること、意識や関心を高めていけるよう支援しています。命についての学びでは、身近な動植物を育てて「命をいただく」活動を通して、生きるといふことを知る機会にしています。成長に伴って困難な壁にぶつかった際にも、自分の力で切り開いていけるよう自己肯定感を伸ばせる関わりを基本としています。	
日々の健康管理は看護師が中心となり、子どもたちの健やかな育ちを支援しています 年2回の嘱託医による健診の際には、発達についての相談を行って個々の特性に合わせた支援や、見守りの体制を整えています。日々の健康管理は看護師が中心となって取り組んでおり、投薬が必要な子どもや事故やけがが発生した際には、マニュアルに基づいて専門職を中心に統一の対応を行っています。本園の子ども発達支援センター以外の療育施設に通所している子どもについては、保護者の協力のもと情報を共有して園の支援方法と統一の認識が図れるようにすることで、子どもの発達においてチームとして関われる体制作りを目指しています。			
入園時にどろんこ会グループにおける健康維持の取り組みについて説明をしています 入園時に重要事項説明書、入園のしおりにどろんこ会グループ及び園の健康維持に関する取り組みについて記載をして、保護者の安心に繋げています。睡眠時の呼気確認の間隔、保育室内の湿度や明るさなどの環境面、布団回りや衣服についての留意点なども同様に説明を行い、基本姿勢を伝えています。感染症発生時には園内掲示やアプリ配信での注意喚起、毎月の保健だよりには免疫力を高める日々の習慣、裸足保育、薄着保育についてなど園の取り組みを紹介して、子どもたちの丈夫な体作りにおいて家庭の協力を得られるよう努めています。			
評価項目7の講評補足			
非公表コメント			

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
	あり	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
	あり	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
	あり	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
	あり	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	
評価項目8の講評			
公表 コメント	保護者の就労状況を考慮して、延長保育の当日の受け入れなどを柔軟に行っています 保護者の急な残業の際には、当日でも対応できる体制を整えて働きやすい環境作りを行っています。朝や夕方の受け入れ時には、保育者からコミュニケーションを取るようにして、何気ない会話の中から保護者の不安や悩みを拾い上げていけるようにしています。個人面談では子どもの家庭での様子について把握をすると共に、園の生活の様子についても保護者と共有をして、共通認識を持って成長を支援していけるよう働きかけています。お疲れの様子が見られる保護者には、随時声を掛けるなどしてゆっくり話を聞ける機会を設けています。		
	連絡帳やアプリのタイムラインを活用して、保育中の子どもの様子を発信しています 保護者にはアプリでの連絡帳を使用して、2歳児クラスまでは毎日の食事量、排泄、睡眠など生活全般を園と家庭とで共有しています。3歳児以上のクラスではアプリのタイムラインで日々の活動内容、保育中の様子を毎日配信して、保護者と子どもの様子を共有しています。保育参加は行事など特別な事が無い限りは年間を通して受け入れを行っており、友だちや保育者との関わり、園の活動についての理解が深まる機会にしています。残念ながら本年度は参加率があまり高くないため、多くの家庭に参加して貰えるように更なる働きかけを期待します。		
	保護者懇談会や行事では、保護者同士が交流できる機会を提供しています 年2回実施している保護者懇談会では、年度始めからの成長過程や、年度末に向けて目ざす姿などについて説明をして、年齢に合わせて子どもの成長において見通しを持てるよう配慮しています。懇談会ではサイコロやくじ引きなどで話題を決めたり、怒ってしまうことや成長していることなどの共通の話題を提供して、顔なじみの関係性が広がるようにしています。本園は保護者の会があり、行事のサポートなどを願ひして協力を得ています。開園初年度の本年度は手探りでしたが、今後も保護者の協力を得て本園らしい行事にしていけるよう目指しています。		
	評価項目8の講評補足		
非公表 コメント			
9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
	あり	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評			
公表 コメント	地域へ足を運ぶことで、子どもたちが実際に見る、聞く、感じる経験を大切にしています どんご会グループでは商店街ツアーがあり、本園は近隣のファストフード店、クリーニング屋、パン屋、ケーキ屋、市役所、郵便局などの近隣の施設を見学しました。地域に出向くことでどんな仕事があるのか、どんな人が暮らしているのかを知り、社会への関心が広がる機会にしています。お店の人への質問タイムでは様々な事を聞くことで、働くことの意義についても触れられるよう支援しています。銭湯の日には3歳児以上のクラスが毎月銭湯に行って、保育者と一緒に風呂に入り、地域の方と交流をしています。		
	園を地域の人に開放して、様々な人が集う場所となるように目指しています 子育て支援は園開放、子育て相談、自然食堂(親子ランチ交流)、どんご芸術学校、どんご自然学校、着なくなった服のフリーマーケット「勝手籠」の設置、地域向けの広報誌「ちきんえつぐ」の発行など多様な活動を実施して、園の資源を地域に還元していけるよう努めています。園開放は在園児と保育室や園庭で遊んだり、「TSUMUGI CAFE」を開放して誰でも利用可能な交流場所を確保しています。次年度へ向けて、園が老若男女問わず地域の人たちが集い、交流できる拠点となるよう目指しています。		
非公表 コメント	評価項目9の講評補足		

調査対象

保育園を利用している53世帯を対象に調査を実施しました。在園児は61名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。

調査方法

アンケート調査は、Webアンケートシステムを使用し、無記名方式で行いました。案内は施設を通じて利用者へ配付し、集計は評価機関が行いました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、施設に報告しました。

利用者総数

61

利用者家族総数(世帯)

53

共通評価項目による調査対象者数

53

共通評価項目による調査の有効回答者数

29

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

54.7%

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が19人(65.5%)、「満足」が10人(34.5%)で「満足」以上の回答は合計29人(100%)でした。

自由意見には、「先生がとにかく子どもたちのことをよく見てくれていて、子どもたちが先生を信頼しているところが素晴らしいと思います」「年齢や特性を問わず、インクルーシブにたくさんの体験を積めます」「生きる事の大切さを身につけられると思います」「発達や年齢に関わらず交流できることで、他者との違いを自然に認識し合い尊重できることは素晴らしいです」「子どもが自分で選択できることが多いです」「先生、環境、方針など、とても恵まれた園に通うことができ、とても嬉しく思っています」「子どものことだけではなく、親のことと考えてくれます」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか」「職員の接遇・態度は適切か」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」で100.0%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が読み取れます。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	29	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「集団生活にて得るものがたくさんあるように思います。実際に通い始めてから、我が子の成長をととても感じます」「子どものありのままの姿を肯定的にとらえてくださり、積極的にいろんな事に取り組めるようになったと感じています」「のびのびと過ごしていて、とても子どものためになっていると感じます」「他の場所では経験したくてもなかなかできない取り組みを数多く実施しており、保護者としても良い経験を子どもにさせてあげられていると思っています」などの声がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	28	1	0	0
「はい」が96.6%、「どちらともいえない」が3.4%でした。 自由意見には、「毎日楽しみに行っていきますし、今日〇〇したよと嬉しそうに話す姿を毎日見えています」「釜で炊いたご飯を食べたり、動物や畑のお世話など、他の園ではできない、いろんな経験をさせてくれます」「家ではできないさまざまな体験ができ、どれもよい刺激を受けています」「食に関する関心も増えました」「保育園でも楽しく過ごしている様子がよく分かり、安心して預けられています」などの声がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	23	6	0	0
「はい」が79.3%、「どちらともいえない」が20.7%でした。 自由意見には、「美味しく健康的で良いと思います」「栄養バランスを考えられていて、何より、いつもとても美味しそうです」「食育の頻度が多く、親としてもためになります」などの声がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	29	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「かなり気を使ってくれていると感じます」「室内のテラスなども日々活用してくださり、悪天候や体調が今一つの時でも、外の風を感じながら活動できることにとても満足しています」「自然とたくさん触れ合う機会があります」「お米や野菜作り、やぎや鶏のお世話、お米の釜炊きなど、家では経験させられないことをやっていただけて、子どもにとって良い経験になっています」「園の外へ出て、見学や活動ができるのも地域と繋がりを持つことができ、素敵だと思います」などの声がありました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	23	1	0	5
「はい」が79.3%、「どちらともいえない」が3.4%、「無回答・非該当」が17.2%でした。 自由意見には、「臨機応変に対応をしてもらっています」「スマートフォンですぐに時間変更できるので、簡単に保護者は助かります」「そういった場面にまだ遭遇していないため答えかねます」などの声がありました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	21	8	0	0
「はい」が72.4%、「どちらともいえない」が27.6%でした。 自由意見には、「少しのけがでも病院に連れて行ってくれるなどするそうで、とても配慮してくれていると感じます」などの声がありました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	24	5	0	0
「はい」が82.8%、「どちらともいえない」が17.2%でした。 自由意見には、「家族で参加できるよう土曜にイベントを開催していただいたり、保護者懇談会も週末に設定していただいていたたりするのでありがたいです」「アプリの行事予定表に行事があることは記入されていますが、時間や場所などの詳細を1か月前に教えて欲しいです」などの声がありました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	28	1	0	0
「はい」が96.6%、「どちらともいえない」が3.4%でした。 自由意見には、「どの先生もよく子どものことを見てくれていて、些細なことでも伝えてくれるなど、とても助かっています。特に担任の先生はいつも気にしてくださっていて、とても感謝しています」「定期的に情報発信してくれるので助かっています」「送迎時や連絡帳を通して子どもの様子を細かく教えてくださり、とても話しやすい環境だと感じています。先生方が親身になって聞いてくださるので相談しやすいです」などの声がありました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	28	1	0	0
「はい」が96.6%、「どちらともいえない」が3.4%でした。 自由意見には、「階段の角などに埃や蜘蛛の巣があります」という意見がありました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	29	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「皆さんいつも笑顔で素敵です。子どもたちも安心して過ごせると思います」「丁寧に接していただいております。ひとりのことをとてもよく見ています」「子どもだけでなく保護者も笑顔で迎えてくださり、要望や相談事にも柔軟に対応していただき感謝しています」「帰り際に伝達担当ではない先生方にも、今日はこんな感じでしたと教えていただき、先生皆さんが見てくださっていると実感しています」「いつも子どもの成長を温かく見守ってくださり、ありがたいです」などの声がありました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	28	0	0	1
「はい」が96.6%、「無回答・非該当」が3.4%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	23	5	0	1
「はい」が79.3%、「どちらともいえない」が17.2%、「無回答・非該当」が3.4%でした。 自由意見には、「トラブル対応はきちんとしていただいていると思います」「怒って泣いて手が出る子どもに、落ち着いて声をかけながら抱きしめてお話ししているのを見かけて尊敬しました」「トラブルになったことがないので対応がわかりません」などの声がありました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	29	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「子どもの気持ちを尊重してくれていると、とても感じます」「子どもの気持ちに寄り添っていただいています」などの声がありました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	25	2	0	2
「はい」が86.2%、「どちらともいえない」が6.9%、「無回答・非該当」が6.9%でした。 自由意見には、「現状そういったことはありません」などの声がありました。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	28	1	0	0
「はい」が96.6%、「どちらともいえない」が3.4%でした。 自由意見には、「保護者懇談会の時にいただくプリントに事細かく記載してくださっていて、日頃の様子がとてもよく伝わります」「アプリを通してお知らせが届くので、確認しやすくわかりやすいです」などの声がありました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	22	3	0	4
「はい」が75.9%、「どちらともいえない」が10.3%、「無回答・非該当」が13.8%でした。 自由意見には、「要望に対してのレスポンスが早く、信頼できます」「まだそういった事例がなく、わかりません」などの声がありました。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	16	6	3	4
「はい」が55.2%、「どちらともいえない」が20.7%、「いいえ」が10.3%、「無回答・非該当」が13.8%でした。 自由意見には、「説明会などで言っているのでしょうか？聞き漏らしたら、申し訳ありません。直接伺ったことはありません」などの声がありました。				

株式会社 学研データサービス
(福祉サービス第三者評価機関)

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-11-8
TEL03-5436-8191 FAX03-5487-8810

●評価機関認証

東京都福祉サービス第三者評価機関認証
埼玉県福祉サービス第三者評価機関認証
千葉県福祉サービス第三者評価機関認証
神奈川県福祉サービス第三者評価機関認証
社会的養護関係施設第三者評価機関認証